

研究開発

当社グループは、安全・安心で豊かなグローバル社会の実現に貢献するため、日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアに有する開発拠点でグローバルに“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスの研究開発を行っています。

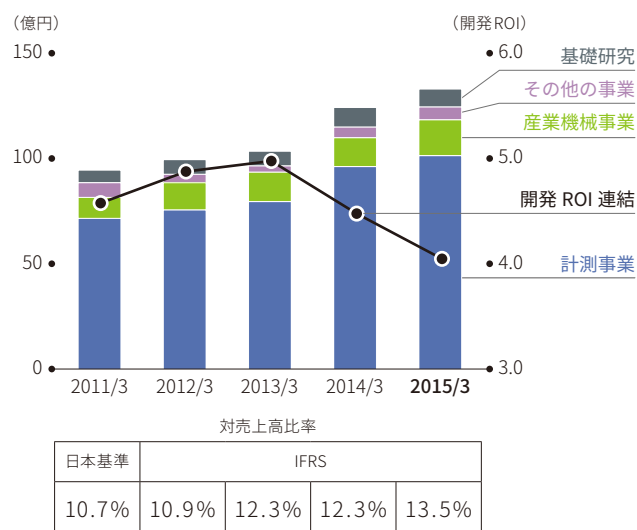
計測事業は、当社、Anritsu Company (米国)、Anritsu Ltd. (英国)、Anritsu A/S (デンマーク)において、保有する技術を相互補完することによりシナジー効果を上げるべく協調して開発を進めています。産業機械事業はアンリツ産機システムが研究開発を行っています。

基本方針

技術進化のスピードが速い通信業界において、計測事業のモバイル分野を中心に、研究開発テーマは加速度的に増加する傾向にあります。こうしたなか、当社はリターンを重視した研究開発投資マネジメントを行うことで、投資効率の向上を図っています。

KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

事業セグメント別研究開発費推移



主な研究成果

- ・モバイル開発用／製造用測定器 機能強化
LTE-Advanced (FDD／TDD) 対応
- ・ネットワークインフラ用測定器 新製品リリース
ネットワークマスタープロ／フレックス
- ・総務省電波資源拡大のための研究開発
100GHz超帯域の微小な無線信号の高精度測定技術
- ・食品医薬品用異物検出ソリューション 新製品リリース
X線検査機、金属検出機

グローバルな研究開発拠点



■ グローバルな連携を強化しシナジーを発揮



アンリツの経営理念にある“オリジナル&ハイレベル”というキーワードを支えるのは、当社の継続的なイノベーションの創出です。当社の研究開発拠点は日本だけではなく、アメリカ、ヨーロッパ、アジアとグローバルに展開しています。それぞれに得意分野があり、各地域の強みを活かしてハード・ソフト両面の技術を磨きながらも、グローバル連携によるシナジーを発揮しています。

日本の研究開発拠点にはアンリツ120年の歴史にふさわしい、ハードウェアとソフトウェアを高度に組み合わせるシステム全体を作り上げ、その完成度を高めていく総合力があります。ヨーロッパの開発拠点ではソフトウェア開発の強みに加え、通信規格の標準化が進むヨーロッパに位置する優位性を生かし、規格動向をいち早く把握し、開発ができるという特徴を持っています。アメリカは、ITを駆使した最もスピード感のあるお客さまからの厳しいリクエストに鍛えられ、お客さまの一番近いところで確実に結果を出す体力が備わっています。

アンリツの技術者は常にお客さまとビジョンを共有し、社会のニーズにお応えしながら技術を磨くことができるという充実感に恵まれています。アンリツに入社し、長くキャリアを重ねる技術者が多いことの背景に、この充実感があるのではないかと私は感じています。

■ 創業120周年の節目に、新たなグローバル本社棟が完成

アンリツは2015年、創業120周年を迎えました。この記念すべき節目にアンリツグループのコアとなるグローバル本社棟が厚木に完成しました。延べ2.8万㎡規模のオフィスビルには、本社部門、計測事業の研究開発部門とマーケティング部門、管理部門の従業員約1,000人が入り、イノベーションの誘発と顧客との共創を促進する知的創造空間で、高度なセキュリティシステムに守られて執務しています。

このグローバル本社棟は全面に免震構造を採用し、地震に対する安全性を高めるとともに、144時間(6日間)対応の非常用電源を確保することで、BCP対策を強化しています。

また環境性能としては、南北横連窓に自然換気装置を組み込んだライトシェルフを設け、設備負荷を軽減しながら快適性を高めました。それとともに、照度・人感センサー付のLED照明器具やエネルギーの見える化等の取り組みにより、神奈川県が行う「建築物温暖化対策計画書制度(CASBEEかながわ)」の5段階評価(S、A、B+、B-、C)で最高評価の「S」を受けています。

